

## コロンビア政治情勢（2022年7月）

### 1 概要

#### 【内政】

- 7月の新型コロナウイルス感染症及びサル痘関連情報
- 新政権の閣僚任命
- 和平プロジェクトの手続きにおける汚職疑惑（1日）
- ペトロ大統領に関するプロセスは両院委員会へ（4日）
- イバン・マルケスに対する攻撃（5日）
- 歴史同盟の公約集会（11日）
- ペトロ大統領支持率に関する世論調査（13日）
- FARC 離反兵指導者イバン・モルディスコの死亡（14日）
- 不法栽培の減少（15日）
- 新国会（2022-2026）の発足（20日）
- 新国会幹部の任命（20日）
- コムネス党の150名以上の離脱（21日）

#### 【外交】

- ラカジェ・ウルグアイ大統領の公式訪問（1日）
- ラミレス副大統領兼外相が経社理のハイレベル政治会合にて中所得各国を代表（5日）
- シンガポールと太平洋同盟の自由貿易協定批准（10日）
- 国連はFARC 離脱兵を未成年の誘拐の罪でブラックリストに掲載（11日）
- ラミレス副大統領兼外相が安倍元総理の弔問記帳に来訪（12日）
- ドゥケ大統領、マイアミで開催されたコンコルディア・サミットに出席（13日）
- 真相究明委員会の報告書（14日）
- 米国、2022年の人身取引に関する報告書発表（19日）
- 日米主導の新型コロナウイルス・グローバル・アクションプランに関する閣僚会合（19日）
- ラミレス副大統領兼外相がブラスール、メルコスールのハイレベル会合を主催（21日）
- バイデン米国大統領ミッションのコロンビア訪問（22日）
- ラミレス副大統領兼外相による外交団との送別会（25日）
- バチェレ国連人権高等弁務官はペトロ政権の「完全な和平」への支持を表明（26日）
- マルケス次期副大統領のラテンアメリカ外遊（26-31日）
- レイバ次期外相がファリア・ベネズエラ外相と会合（29日）

### 2 本文

## 【内政】

### (1) 7月の新型コロナ感染症及びサル痘関連情報

- 累計新型コロナ感染者は、7月末時点で626万5798人、死者数は14万845人となった。
- 3日 米国の201万6千回分の新型コロナワクチン（Janssen）無償供与のうち、2回目となる100万8千回分が到着。
- 4日 新型コロナ感染者数が再度拡大していることを受け、保健省は屋内でのマスク着用を推奨した。
- 8日 ルイス保健大臣は、国内に新型コロナ感染第5波が到来中と言及、更なるワクチン接種の促進を求めた。
- 21日 保健省は公共交通機関、バスターミナルや空港等の場所におけるマスクの着用を再度義務づけた。
- サル痘に関して、7月末時点で12件の感染が確認された。

### (2) 新政権の閣僚任命

ペトロ次期大統領は1日、コルチョ保健大臣、ムアマド環境大臣、ロペス農業大臣の3名を指名した。その後、4日にはアリサ文化大臣、7日にはガビリア教育大臣、22日にはベラスケス国防大臣、28日にはルエダ和平担当補佐官の指名を発表したが、政府の全容が明らかになるのは、8月の新政権就任まで持ち越されることとなった。

### (3) 和平プロジェクトの手続きにおける汚職疑惑（1日）

ブルーラジオは1日、和平プロジェクトの推進に関わる贈収賄が行われていた可能性について報じた。和平合意履行を担当していたアルチーラ元大統領補佐官によれば、2019年から2021年にかけて実施された5件の和平プロジェクトについて不正の疑惑が指摘されており、それらは既に全て検証手続きに付されている。

### (4) イバン・マルケスに対する攻撃（5日）

諜報機関ハイレベルの関係者が5日、明らかにしたところによれば、元FARC戦闘員でセグンダ・マルケタリアの指導者であるイバン・マルケスは、6月29日にベネズエラのボリバル州にある自らのキャンプに爆発物を仕掛けられて攻撃を受け、複数名の仲間と共に重症を負った。これによれば、セグンダ・マルケタリアはELNに助けを求め、ELNのメンバーに支援要請を受けたベネズエラ政権は、イバン・マルケスをカラカス市内の病院の集中治療室に運び、警護を付けたという。

関係者の間では、この攻撃は、5月に指導者「ヘンティル・ドゥアルテ」を殺害された対立する元FARC離脱兵グループによる報復か、仲間内の反逆行為の可能性が取り沙汰されている。

(5) 歴史同盟の公約集会 (11日)

11日、歴史同盟はメデジンで最初の公約集会を招集し、政権最初の通常国会期において推進する法案について協議した。経済的テーマが中心となったが、税制改革、ELNとの和平、議会役員人事等についても協議された。28日から29日にかけてはサンタ・マルタで同じく歴史同盟と連立政党の公約集会が開催され、次期政権が目指すとされる「完全な和平」についても協議し、武装団体に対し、警官の殺害を目的とする「ピストル計画」を直ちに止めるよう、呼びかけた。

(6) ペトロ大統領支持率に関する世論調査 (13日)

インバメル社が6月30日から7月10日にかけて行った世論調査によれば、ペトロ次期大統領に対するプラスのイメージが初めて60%を超えた。ドゥケ大統領のプラスイメージは就任当時40%だったが、任期最終月の今回は、その成果を評価する回答は27%、評価しないとする者は68%だった。ペトロ次期大統領のイメージ向上は、「国民の大合意」を達成しようと、これまで対立してきた各方面の人物と対話の姿勢を見せたためであると報じられた。

(7) FARC 離反兵指導者イバン・モルディスコの死亡 (14日)

政府の情報筋によれば、9日、ネストル・グレゴリオ・ベラ、通称「イバン・モルディスコ」がカケタ県における軍の攻撃によって死亡し、後にその遺体は回収された。同氏は今年5月に同じく死亡した通称「ヘンティル・ドゥアルテ」の後任として元FARC分離兵による第一戦線を率いていた。同事実は16日、国防大臣によって確認された。

(8) 不法栽培の減少 (15日)

15日に米国の国家麻薬統制政策局が発表した最新の統計によれば、2021年のコロンビア国内におけるコカの葉の違法栽培は、23万4000ヘクタールと、前年比4.5%減とわずかに減少した。右栽培が減少したのは2018年以来初めて。コカインの生産量は972トンで、想定された994トンをこちらも下回った。

(10) 新国会 (2022-2026) の発足 (20日)

20日、ドゥケ大統領は任期中最後となる国会召集を行った。ドゥケ大統領の演説は政権4年間を振り返るものとなり、和平合意の履行推進や、コロナ対策、経済活性化等を成果としてあげるとともに、全国的ストの中で暴力や道路封鎖が行われたことを嘆き、軍や警察の働きを賞賛した。また、ペトロ政権の提案する改革法案に注意深く目を光らせ、民主主義と機構制度、自由経済を尊重するよう、各政党関係者に求めた。

(11) 新国会幹部の任命 (20日)

20日に発足した国会の役員は以下のとおりとなった。

上院議長 (国会議長) ロイ・バレラス議員 (歴史同盟)

上院第一副議長 ミゲル・アンヘル・ピント議員 (自由党)

上院第二副議長 オノリオ・エンリケス (民主中道党)

下院議長 ダビ・ラセロ議員 (歴史同盟)

下院第一副議長 オルガ・ルシア・ベラスケス (緑の同盟党)

下院第二副議長 エリカ・タティアナ・サンチェス・リガ (反汚職統治者同盟)

また、国会内多数派工作の結果、与党歴史同盟は上下院共に多くの連立与党を獲得 (上院108議席中79議席、下院187議席中143議席) した。

(12) コムネス党の150名以上の離脱 (21日)

21日、ビクトリア・サンディーノ、イスラエル・スニガ、ホアキン・ゴメス等を始めとする約150名のコムネス党のメンバーは、党の決定に自らの意志が反映されておらず、党の代表性を感じないとし、党に離党願を提出した。

【外交】

(1) ラカジェ・ウルグアイ大統領の公式訪問 (1日)

ドゥケ大統領は1日、公式訪問したウルグアイのラカジェ・ポウ大統領をカルタヘナで出迎えた。会談の中で両大統領は、引き続き両国の経済・貿易関係を深化していくことの重要性について協議した。また、両大統領は犯罪人引渡し条約に署名した。

(2) ラミレス副大統領兼外相が国連経済社会理事会 (ECOSOC) のハイレベル政治会合にて中所得各国を代表 (5日)

5日、ラミレス副大統領兼外相は、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の「コロナから、2030年に向けた持続可能な発展を目指し、より良い社会を再構築する」と題したディスカッションにおいて、中所得国各国 (アルメニア、ベラルーシ、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、パナマ、ペルー、フィリピン等) を代表して発言し、「持続可能な発展を確保するためには、公共政策やより大きな国際協力を通じて、より効果的、効率的に構造的格差の問題に取り組むことが不可欠である」旨述べた。

(3) シンガポールと太平洋同盟の自由貿易協定批准 (10日)

駐シンガポールのマヌエル・ソラーノ・コロンビア大使は、10日、シンガポール外務省のタン米州局長から、シンガポールは、今年の1月に署名された太平洋同盟とのFTA発効のための法的条件を全て達成した旨の通知を受領した。同協定はシンガポールとコロンビア

の間で締結された最初の条約で、多くの関税を撤廃し、財とサービスの交流を促進し、コロンビアにおけるシンガポールの投資を促すことが期待されている。

(4) 国連はFARC 離脱兵を未成年の誘拐の罪でブラックリストに掲載 (11日)

国連は、FARC 離脱兵が、コロンビアにおける未成年の勧誘と、紛争における子供の権利侵害が著しいとして、FARC 離脱兵をブラックリストに追加した。国連が発表した報告書によれば、2021年、カウカ県、チョコ県、アンティオキア県において子供の殺害が31件、子供が重症を負うケースが39件発生した。同報告書は、ELN、コロンビア・ガイタン主義自警団、クラン・デル・ゴルフオ等も未成年の勧誘を行っているとして警告した。

(5) ラミレス副大統領兼外相が安倍元総理の弔問記帳に来訪 (12日)

12日、ラミレス副大統領兼外相は在コロンビア日本大使館にて、逝去した安倍元総理に対する弔問記帳を行い、安倍元総理はコロンビアの偉大な友人だったと述べた。

(6) ドウケ大統領、マイアミで開催されたコンコルディア・サミットに出席 (13日)

13日、ドウケ大統領は、マイアミ大学で開催された米州コンコルディア・サミットに特別ゲストとして出席し、公共部門で「2022年リーダーシップ賞」を受賞し、「ラテンアメリカ民主主義の将来」のセッションでスピーチを行った。

(7) 真相究明委員会の報告書 (14日)

14日、国連安保理の会合の場で、コロンビアの真相究明委員会の定期報告書の発表が行われ、出席したラミレス副大統領兼外相が最後の演説を行った。ラミレス副大統領兼外相は、国際社会に対し、FARC との和平合意履行と麻薬との闘いを続けるコロンビア新政権に寄り添い続けて欲しいと訴え、現政権が民主主義、民主制度、そして堅固で安定した経済をその遺産として残した点を強調した。参加した各国は、平和裡に実施された選挙とその高い投票率に反映されたコロンビアの民主主義の安定性、そして和平合意履行の進捗を高く評価した。会合には、真相究明委員長のデルー神父も参加し、グテーレス事務総長に最終報告書を提出した。

(8) 米国、2022年の人身取引に関する報告書発表 (19日)

19日、ブリンケン米 국무長官は2022年の人身取引に関する報告書を発表し、その中で、コロンビアは7年連続、人身取引対策に最も注力している国のレベルに分類された。第22回報告書は188カ国・地域の人身取引に関する状況を分析した上で、各国の取り組み状況を4つのレベルに分類している。

(9) 日米主導の新型コロナウイルス・グローバル・アクションプランに関する閣僚会合 (1

9日)

19日、林外務大臣とブリンケン国務長官が主導する新型コロナウイルス・グローバル・アクションプランに関する閣僚会合が開催され、ラミレス副大統領兼外相がオンラインで参加し、ラテンアメリカにおける新型コロナウイルスの死者が全世界の27%を占めることに言及し、コロンビア政府がラテンアメリカ地域に対して行ってきた感染拡大予防策や情報共有網の強化について述べた。

(10) ラミレス副大統領兼外相がプロスール、メルコスールのハイレベル会合に参加(21日)

21日、ラミレス副大統領兼外相は、パラグアイのアスンシオンで開催されたメルコスール及びプロスールの首脳会合に参加した。プロスールの会合では、地域における国際組織犯罪の状況について協議され、議長国であるパラグアイの報告を受けた。またメルコスールの会合では、共同市場審議会(CMC)の報告書が共有された後、議長国がパラグアイからウルグアイに移行された。

(11) バイデン米国大統領ミッションのコロンビア訪問(22日)

22日、米国のジョン・フィナー国家安全保障担当主席副補佐官(Jon Finer Principal Deputy National Security Advisor)、フィル・ゴードン国家安全保障担当副大統領補佐官(Phil Gordon National Security Advisor to the Vice President)、ブライアン・ニコルズ西半球担当国務次官補(Brian Nichols Assistant Secretary of State for Western Hemisphere Affairs)、フアン・ゴンサレス国家安全保障会議西半球担当大統領補佐官(National Security Council Senior Director for the Western Hemisphere Juan Gonzalez)ら米国政府関係者がコロンビアを訪問し、ドゥケ大統領及びペトロ次期大統領、マルケス次期副大統領と会談した。

フィナー副補佐官は、「非常に実りあるボゴタ訪問だった」と述べ、バイデン大統領は、「米国とコロンビアは主権国家で、互いに対等なパートナーで、深い関係を築いていることを認めるために使者を送った」のであって、気候変動、移民、対麻薬政策等、二国間関係が共有するあらゆるテーマについて協議し、米国の具体的な関わり方について合意を得たと述べた。同会合には、レイバ次期外相及びムリージョ次期駐米大使も同席した。

(12) ラミレス副大統領兼外相による外交団との送別会(25日)

25日、ラミレス副大統領兼外相は外交団との送別会を開催し、現政権の成果を振り返るとともに、外交団に対し、これまでの外務省との協力に対して謝意を述べた。

(13) バチエレ国連人権高等弁務官、「完全な和平」への支持を表明(26日)

26日、バチエレ国連人権高等弁務官は、ペトロ次期政権の推進する「完全な和平」への

支持を表明した。同支持は「コロンビアの土地を巡る暴力に関する報告書：新政権に対する助言」発表の後に示された。

(14) マルケス次期副大統領のラテンアメリカ外遊(26-31日)

フランシア・マルケス次期副大統領は、26日から31日にかけて、ブラジル、チリ、アルゼンチン、ボリビアを訪問した。ブラジルでは、大統領の座を狙うルーラ元大統領と会談し、和平と飢餓・差別問題等について協議した。チリでは、ボリッチ大統領と会談した。

(15) レイバ次期外相がフェアリア・ベネズエラ外相と会合(29日)

29日、レイバ次期外相はベネズエラのタチラ州においてベネズエラのフェアリア外相と会合し、8月7日のペトロ政権就任以降、両国でカラカスとボゴタ駐在の大使を任命することで合意した。駐ベネズエラ大使の候補にはペトロ次期大統領の右腕と言われるアルマンド・ベネデッティ氏の名が上がっており、同会合にはベネデッティ氏も同席した。